

つなぐ



<現在の設立状況(28.8.1)>
 まちづくり協議会 20 地区
 まちづくり協議会準備会 1 地区

発行：松山市役所 市民参画まちづくり課 TEL:(089)948-6963 FAX:(089)934-3157

HP：<http://www.city.matsuyama.ehime.jp/shisei/machizukuri/chiikicomunity/machidukuri.html>

Vol.8



"ほどよい縁" をめざして

◆「近助」共助を根付かせたい◆
 「今回の取り組みで地域の様々な団体、企業、学校などが協力して地域課題に取り組みが整えられた。」
 「今後は久米地区にある11町それぞれで交流の場を『ミニふれあい縁側』を開設し、ゆつくり地域に『近助』『共助』の仕組みを根付かせていきたい。」(久米ふれあいタウンづくり協議会 仙波事務局長)



食後は子どもへの学習支援も行われています。

◆通学合宿から食堂へ◆
 7月14日久米公民館の協力を得て久米ふれあい食堂が開店しました。この食堂は子どもや高齢者の孤食対策を目的に実施された事業です。
 久米公民館で実施している通学合宿事業の経験を生かし、共に食事をする事で「ほどよい縁」を結ぶ関係性を目指し実施することになりました。
 この事業は地元の各種団体や企業、ボランティアの方々の協力で運営されており、地域が協力してこの事業に取り組んでいます。



調理を担当したボランティアの皆さん。この日は午後4時頃から準備をされたそうです。

◆みんなで一緒に夕食を◆
 この日が初日となったふれあい食堂には、45名の申込みがあり、多くの子どもや高齢者で賑わいました。
 参加された高齢者の方は「いつも一人で食事をしてきた。こうやってみんなで食事をするととてもおいしい」とうれしそうに話してくれました。
 料理に使われる食材は地元の方々の持ち寄りやナス、トマトなど旬の野菜が多く使われていました。
 調理を担当するのは地区の婦人団体連合会とボランティアの方々です。この日も料理の準備から後片付けまで手際よく作業をされています。



この日のメニューは 鶏の唐揚げ、茄子の炒め物、たなききゅうり、ご飯、お吸い物

若者の力で地域をおこす



6月26日(日) 松山大学 カルフォル・ホールにて第2回地域力パワーアップ大会を開催しました。

「若者の力で地域をおこす」をテーマに、第一部では堀江地区、清水地区のまちづくり協議会と松山大学学生地域創造研究所Museの事例発表を行いそれぞれの団体が取り組む地域活動について発表しました。第二部では、第一部の発表者に松山市のコミュニティ・アドバイザーを交え意見交換を行いました。若者の力を地域活動に生かすにはどうしたらいいかそれぞれの立場から意見を出し合いました。

第二部 意見交換

●事例発表を聞いて



●事例発表を聞いて 讃岐幸治アドバイザー
若者は視点が違う。若者の新鮮な目で見ることによって視点を変えることが今大会のテーマになったと思う。また発表を聞いて地域とのつながりという点ではあまり見えてこなかった。そこを繋いでいくことが今後の課題だと思ふ。

●地域活動と若者



●地域活動と若者 若松進アドバイザー
地域は若者に何を求めている、若者は地域に何ができるのかお互いが意見を出し合っていくことが大切。現状ではお互い繋がりがないのでどこに意見を言えばいいかわからない。お互いをパートナーとして活動を重ね関わりをつくっていくことが理想。

●若者に参加してもらうには？ 前田眞アドバイザー



●若者に参加してもらうには？ 前田眞アドバイザー
地域活動に若い世代に参加してもらうには、地域側からの呼びかけが必要。その際何をどんな形で助けてほしいのか明確に発信することが重要。助けてもらう力「受援力」を身につけて、若者を含む多様な人々に協力を求める活動していくことが大切。

●居場所づくりの必要性



●居場所づくりの必要性 堀江/長尾眞二事務局長
多様な人に参画をしてもらうには居場所づくりが必要。堀江ではPTA、おやじの会、ゆめくらぶなど若い人の居場所を作っている。いろいろなアプローチでまちづくりに関心のある人の居場所、活躍の場を作っていくことが大事。

●まちづくりに参加して



●まちづくりに参加して 清水/小並優斗学生活動局長
大学で声を掛けられたのをきっかけにまちづくりに参加した。まだ自分たち中心の活動が多いので、今後は地域の方とのコミュニケーションや人と人のつながりを大切にしながらみんなでまちづくりに取り組んでいきたい。

●運営方法やこれからの課題



●運営方法やこれからの課題 松山大学Muse/宮岡眞由子事務局長
Museでは、大学を通じて活動の依頼があったり直接事務局に連絡をもらって地域活動に協力している。メンバーは100名近くいるが積極的に活動しているのは半分程度なので残りの人をどう巻き込んでいくかが課題になっている。

第一部 事例発表



NPO法人 松山大学学生地域創造研究所Muse 「六つの志 「夢を追いかける私たち」

◆NPO法人Museの活動
松山大学の学生を中心に設立された地域貢献を目的としたNPO法人。
遍路マップの作成やポンポコ村(坂本地区)ホテル祭り(久谷地区)の支援事業を行っている。
やらされているという義務感ではなく自分達で積極的に行動し活動していきたい。



清水地区まちづくり協議会 「学生が地域と関わる」

◆ゆめくらぶの活動について
平成25年に団結式を開催。現在は小学4年生から大学1年生まで120名がメンバー登録。
ふるさとで楽しい思い出を作ってもらい、ふるさとを愛する大人になってもらいたいとの思いから、子どもをまちづくりのパートナーとし、子どもの夢やアイデアを取り入れたイベントを行っている。



堀江地区まちづくりコミュニティ会議 「子どもにだってできるまちづくりはある」

◆学生活動局の活動と金沢視察
「地域コミュニティを活性化させたい！学生に何ができるのか？」
学生活動局は先進地である金沢を視察、古民家を改装した学生交流館などを見学した。
清水地区では「地域と学生を繋ぐ」を理念としてまちあるきや勉強会を実施。フェイスブックやツイッターを活用した情報発信も行っている。



Q.なぜまちづくりに関わろうと思ったんですか？
・地元へ帰って地域を賑やかにしたい(西川さん)
・教員を目指しているのでまち協を通じて小中学校と関わりを持ちたい(三浦さん)

司会進行を担当していただいた桑原地区まちづくり協議会学生部の西川さん(左)と三浦さん(右)



まち協PRブース
会場のロビーにはまち協のPRブースを設置し、各地区の紹介や広報紙、まち協が作成したマップやPRグッズ等を展示しました。



正岡地区まちづくり協議会 米作り体験 田植え



田植えの説明をする杉浦事務局長



一緒に田植えを行う門田会長



6月27日(月)正岡地区まちづくり協議会による正岡小4, 5, 6年生を対象とした米作り体験の田植えが実施されました。

この日は雨の影響で3回の延期を経ての実施となりました。参加した子どもたちは杉浦事務局長の説明を受けたあと裸足で元気よく田んぼに入っていました。子どもたちは田んぼの泥の感触に歓声を上げながら手で苗を植えていき、最後は門田会長をはじめまち協役員やスタッフも加わり1時間ほどで田植えは終了しました。

秋には稲刈りの体験、収穫したもち米を使った餅つき体験も予定されており、子どもたちも楽しみにしているようでした。



手で1つ1つ苗を植えていきます



最後は雨が降り出しましたが、無事に田植えを終えることができました。

味酒地区まちづくり協議会設立総会



味酒地区 (28,7,1 現在)
人口 23,136人
世帯数 12,312世帯

味酒地区がより暮らしやすいまちになるよう各団体と協力して活動していきます。



味酒地区まちづくり協議会
美馬 安明 会長

7月11日(月)味酒地区まちづくり協議会設立総会が開催されました。味酒地区は庚申庵や阿沼美神社等の文化財や史跡があります。また近年は商業施設やマンションの建設も進み多くの人で賑わう地域でもあります。

味酒地区まちづくり協議会には地区内各種団体のほかに企業、医療機関なども参加しており各団体が協力して地域課題に取り組んでいく予定です。



そうめんながし

清水地区まちづくり協議会学生活動局



7月17日(日)清水地区まちづくり協議会学生活動局が清水ふれあいセンターにてそうめんながしを実施しました。前日に竹を使った

10mほどの流し台を作製し会場に設置しました。当日は近所の方や親子連れ、大学生や留学生も集まり、流れてくるそうめんを美味しく食べていました。



使用した竹は桑原地区まちづくり協議会に協力してもらい用意しました。



◆ 社会教育が趣味だという仙波事務局長は、まち協以外にも公民館やNPOなど様々な組織で活動されています。

世代間交流や自主性の育ち、地域貢献活動の活性化を目標に手間・居間・仲間・世間の4間を大切に学びの地産地消に力を注ぎたいと考えています。

Q 今後力を入れていきたいことを教えてください。

また、どのような「場」を提供すればいいのかわからない部分もあり、迷走してしまう事業が多くその点苦労しています。

Q 活動していて良かったこと、苦労したことはありますか？

様々な活動を通して人・物・自然が豊かに関わりあえる「場」を作っています。その中で参加者が自主的に事業を発展させるような活動をしてくれるとうれしいです。

子どもたちの不登校や非行の問題が解決しません。その原因は人と社会の「関わりあう力」の衰退にあると考え、地域社会で人・物・自然が豊かに関わりあえる「場」をつくりたいと考えまちづくりに関わるようになりました。

Q まちづくりに関わることになったきっかけは？

趣味はゴルフと社会教育。社会教育には、PTA活動をきっかけに20年以上関わっています。平成18年にNPO えひめ子どもチャレンジ支援機構を設立しこちらでも活動しています。

第7回 まちづくりで輝く人 地域で活躍している人を紹介します

興味はゴルフと社会教育。社会教育には、PTA活動をきっかけに20年以上関わっています。平成18年にNPO えひめ子どもチャレンジ支援機構を設立しこちらでも活動しています。



久米ふれあいタウンづくり協議会
仙波英徳事務局長